



Title	少年院生の生活と意識に関する調査結果
Author(s)	岩田, 美香; 二瓶, 隆子
Citation	教育福祉研究, 14, 55-68
Issue Date	2008-03-28
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/39611
Type	bulletin (article)
File Information	JESW14_005.pdf



[Instructions for use](#)

少年院生の生活と意識に関する調査結果

岩田美香・二瓶隆子

【調査概要】

1. 調査の目的

本調査は、少年院生に対して、彼らが少年院に入院する前に、どのような「人」たちに囲まれて生活していたのかを中心に、その生活実態と意識を明らかにすることを目的として実施した。

2. 調査の手続きと実施時期

A地域B少年院（初等・中等少年院、収容定員150名）に対して、「青少年の生活に関する意識調査」という質問紙調査を委託する形で行い、調査時には、各寮担当の職員が用紙の配布・説明・指示・回収を行った。調査は集団自記法で、各寮担当の職員の判断により、30分～40分程度の回答時間を設けた。質問紙は、プライバシーを配慮して無記名とし、有効回答104票を分析対象とした。調査時期は2006年8月である。

3. 調査対象者の特徴

調査対象者の年齢では、17歳・19歳（各々21.2%）が最も多く、次いで16歳（19.2%）である（表1）。また、少年院入院直前の最後学歴（中退を含む）は、高校（46.2%）と中学校（44.2%）で大半を占める（表2）。また、少年たちからみた

表1 年齢別回答者数

	回答者数 (人)	構成比 (%)
15歳	9	8.7
16歳	20	19.2
17歳	22	21.2
18歳	18	17.3
19歳	22	21.2
20歳	12	11.5
N. A	1	1.0
合計	104	100.0

家族の経済状況は、「困っていると思う」が43.3%と高い（表3）。

4. 調査内容

家族（親戚）との関わり、学校の先生との関わり、友人との関わり、地域との関わり、少年院を退院した後の進路について。

【調査結果】

1. 家族との生活

(1) 誰と住んでいたのか

少年たちが少年院に入院する前に暮らしていた家族の構成員では、実父母が多いものの、実父で5割、実母で7割弱にとどまっており、さらに「その他」の項目にあるように施設やひとり暮らし・友人・妻帯者などの独立した世帯を形成しているものもいる（表4）。そのような家族の構成員を反

表2 最後に通った学校

	回答者数 (人)	構成比 (%)
中学校	46	44.2
高校	48	46.2
専門学校	6	5.8
短大	1	1.0
大学	0	0.0
N. A	3	2.9
合計	104	100.0

表3 家族の経済状況はどのくらいだと思うか

	回答者数 (人)	構成比 (%)
豊かだと思う	8	7.7
普通だと思う	46	44.2
困っていると思う	45	43.3
わからない	5	4.8
合計	104	100.0

表4 誰と生活していたか（複数回答）

N=104人

	回答数（人）	構成比（%）
実のお父さん	52	50.0
義理のお父さん	16	15.4
実のお母さん	72	69.2
義理のお母さん	6	5.8
おじいさん	8	7.7
おばあさん	12	11.5
お兄さん	30	28.8
お姉さん	27	26.0
弟	28	26.9
妹	25	24.0
親戚の人	4	3.8
その他	15	14.4

◎表4の「その他」の回答

- ・児童養護施設の人
- ・兄ちゃんの彼女
- ・おいっ子2人
- ・知り合いの人（同回答2名）
- ・男の人
- ・妻
- ・一人暮らし（同回答2名）
- ・施設の先生方
- ・友人2人
- ・いとこのおじいさん、お姉ちゃん
- ・子供
- ・妻と子供

映し、少年たちの身の回りの世話をしてくれていたのは、実母が7割、実父で3割に留まり、様々な暮らしぶりが伺える（表5）。また、「一緒に暮らしている人の中で、本当は一緒に住みたくない人がいるか」という質問には、19.2%の少年が「いる」と回答しており（表6）、その内訳は父親・母親・きょうだいが高くなっている（表7）。

（2）家庭内での会話

家庭内でのコミュニケーションについては、「学校や友人の事（表8）」や「自分の進路（表9）」については、6割弱が親や親に代わる人に話をしているが、「学校の勉強・成績（表10）」や「自分の悩み事（表11）」になると3割前後に落ち込む。少年たちは、親とのコミュニケーションを欲しており、「もっと親と話がしたい」は66.4%に上っている（表12）。

表5 身の回りの世話をしてくれる人（複数回答）

N=104人

	回答数（人）	構成比（%）
実のお父さん	31	29.8
義理のお父さん	3	3.8
実のお母さん	74	71.2
義理のお母さん	3	2.9
おじいさん	6	5.8
おばあさん	11	10.6
きょうだい	15	14.4
親戚の人	3	2.9
その他	13	12.5

◎表5の「その他」の回答

- ・児童養護施設の人
- ・恋人（同回答2名）
- ・妻（同回答2名）
- ・いない（同回答2名）
- ・知り合いの人
- ・施設の先生方
- ・友人
- ・彼女のお母さん

表6 同居者に一緒に住みたくない人がいるか

	回答数（人）	構成比（%）
いいえ	82	78.8
はい	20	19.2
N. A	2	2.0
合計	104	100.0

表7 一緒に住んでいる人の中で一緒に住みたくない人（複数回答）

N=104人

	回答数（人）	構成比（%）
実のお父さん	7	35.0
義理のお父さん	5	25.0
実のお母さん	5	25.0
義理のお母さん	2	10.0
おじいさん	1	5.0
おばあさん	1	5.0
きょうだい	6	30.0
親戚の人	0	0.0
その他	4	20.0

◎表7の「その他」の回答

- ・児童養護施設の人
- ・知り合い（同回答2名）

表8 親に学校や友達のことについて話すか

	回答者数 (人)	構成比 (%)
話す	60	57.7
話さない	43	41.3
N. A	1	1.0
合計	104	100.0

表9 進路について親と話すか

	回答者数 (人)	構成比 (%)
話す	61	58.7
話さない	41	39.4
N. A	2	1.9
合計	104	100.0

表10 学校の勉強の内容や、成績について親と話すか

	回答者数 (人)	構成比 (%)
話す	34	32.7
話さない	68	65.4
N. A	2	1.9
合計	104	100.0

表11 親に悩み事や心配事を話すか

	回答者数 (人)	構成比 (%)
話す	24	23.1
話さない	72	69.2
N. A	8	7.7
合計	104	100.0

表12 もっと親と話をしたいか

	回答者数 (人)	構成比 (%)
話したい	69	66.4
話したくない	34	32.7
N. A	1	1.0
合計	104	100.0

(3) 家族との暮らし

そもそも家族とどのように暮らしているのかについて見れば、日ごろの食事も「家族そろって」あるいは「家族の誰かと」夕食をとる割合が3割を下回り、「家族以外の人」や「ひとり」で夕食を

表13 夕食をだれと食べるか

	回答者数 (人)	構成比 (%)
家族そろって	10	9.6
家族の誰かと	18	17.3
ひとりで	31	29.8
家族以外と	42	40.4
N. A	3	2.9
合計	104	100.0

◎表13の「家族以外」の回答

- ・児童養護施設の人
- ・友達 (同回答14名)
- ・彼女 (同回答4名)
- ・職場の人、先輩、友人
- ・彼女や仕事仲間などの人達
- ・友達や先輩 (同回答2名)
- ・夜遊びしている友達と食べる場合が多かった
- ・彼女、友達 (同回答10名)
- ・知り合いなど (同回答2名)
- ・彼女やその家族、家に居るときは親と
- ・彼女の家族と友達の家族
- ・自分の女
- ・友達や仕事の人 (同回答2名)

とっている割合が高い (表13)。

休日に親と過ごすことも「ほとんどない」+「まったくない」が半数を超えており (表14)、長期休暇の時などに家族で行く旅行やキャンプも「まったく行かない」が48.1%、「ほとんど行かない」が19.2% (表15) と家族で楽しむ経験は少なく、反対に「家族が暴力をふるうこと」は「いつ

表14 休日に親と過ごす頻度

	回答者数 (人)	構成比 (%)
よくある	7	6.7
時々ある	42	40.4
ほとんどない	33	31.7
まったくない	21	20.2
N. A	1	1.0
合計	104	100.0

表15 家族で旅行やキャンプに行くか

	回答者数 (人)	構成比 (%)
よく行く	10	9.6
たまに行く	23	22.1
ほとんど行かない	20	19.2
まったく行かない	50	48.1
N. A	1	1.0
合計	104	100.0

表16 家族が暴力をふるうことがあるか

	回答者数 (人)	構成比 (%)
いつも	7	6.7
時々ある	23	22.1
ほとんどない	27	26.0
まったくない	46	44.2
N. A	1	1.0
合計	104	100.0

表17 暴力を振振るう人 (複数回答)

N = 30 人

	回答数 (人)	構成比 (%)
実のお父さん	14	46.7
義理のお父さん	5	16.7
実のお母さん	7	23.3
義理のお母さん	1	3.3
おじいさん	1	3.3
おばあさん	1	3.3
きょうだい	7	23.3
親戚の人	2	6.7
その他	2	6.7

◎表17の「その他」の内容

- ・児童養護施設の人
- ・知り合い

も]+「時々」で28.8%と3割近く(表16)、その内訳も実父が半数近い(表17)。

(4) 家族への評価

こうした暮らしを反映して、「家族に対する満足度」も4割弱が「不満」を抱いており(表18)、その内容は、「家族と一緒に楽しむことがない」「家に居場所がない」「一緒に住んでいる人と気が合わない」「家庭に争いごとがある」など、上述の質問結果を反映している(表19)。また下記に記すように、家族に対する悩み(自由回答)についても複雑な心境を述べている。

- ・もっと家族らしくしたいし、一緒に楽しみたい。
- ・関心がなさすぎて、他人みたいな生活が悩みです。
- ・父が仕事などで忙しくて、疲労やストレスで知人とお酒を飲みたくなるのは分かるけど、もっと家族と積極的に話をしてほしい。
- ・被害弁償などで経済的に困っているのではないかとということ。

表18 家族との生活の満足度

	回答者数 (人)	構成比 (%)
満足	64	61.5
不満	40	38.5
合計	104	100.0

表19 家族との生活を不満とする理由 (複数回答)

N = 40 人

	回答数(人)	構成比(%)
家庭の収入が少ない	8	20.0
家庭に争いごとがある	11	27.5
家族と一緒に楽しむことがない	18	45.0
家に居場所がない	12	30.0
家がせますぎる	7	17.5
家の周囲の環境が悪い	2	5.0
親の愛情が足りない	7	17.5
親が自分に厳しい	9	22.5
親が自分を理解してくれない	9	22.5
親の職業が嫌い	2	5.0
一緒に住んでいる人との気が合わない	14	30.0
ただなんとなく	5	12.5
その他	8	20.0

◎表19の「その他」の内容

- ・親の顔すら分からないし親に捨てられた身だから不満
- ・父さん母さんと一緒に生活しづらいから早く自立したい
- ・親が自己中だから
- ・冷たい
- ・父が暴れる、金を盗む
- ・生まれた家が悪かった

- ・母をこれ以上泣かしたくない。
- ・両親を大切にしようという思いが薄い。
- ・父さん母さんのことはきらいではないけれど、自分が一人っ子というのもあるからかもしれないけど、なんか心配されすぎとか、とにかく仕事とかも頑張って自立したいと思っています。それと、父さんにはお金のことをしっかり考えて、自分に頼ってこないでほしいです。
- ・母が再婚かなにかをしてくれれば、自分の将来以外のことを考えなくて済みます。そうじゃなければ老後をどうやって一緒に暮らすか、と考えなければならない。なので、養えるようにと

医者を目指します。

- もっと子供をしり、理解してほしい。目先のことで文句を言わないでほしい。
- 特にないです。僕が全て悪いので。
- 特にありませんが、もっと厳しくしてほしい。
- もっと優しさがほしい。
- もっと一緒にいる時間を増やしてほしい。
- 話をきいてくれない。
- 父さんと話さないこと。
- すぐくえらそうではらがたつ。
- ほうっておいてほしい。
- 今は落ち着いているらしいのですが、兄が精神的に不安定な面があり、母に対し暴力を振ったりしていたことです。それに、友達等もいなく、家にいて仕事もしていないので、どうか良い方向へ行かせてあげたいです。
- もう少し弟とかを遊びに連れて行ってほしい。
- 父親がいない。家を出てしまった。
- 母は何も力になってくれない。
- 離婚してしまったので、片親だけになったので少しさびしいです。
- 全体的にまとまりがなく、バラバラな所。
- 親が帰ってきてても、パチンコに行くと親があまり家にいない。
- 助けてほしい。
- あまり干渉しないでもらいたい。
- お父さん以外誰も仕事をしてくれない。おじさんがいるのに、仕事をしてくれない。だから家はすごく苦しい。
- 勉強する時間がほしい
- 義父がいなければ良いのと思う
- すべて。
- 父の内縁関係の人を自分の中で認められず、そのことで父ともめることが悩みです。
- 自分は少年院にいて、家には妻や子供が待っている。そこで本当に待ってくれるのか!?

それでも、「自分が困ったときには家族が頼りになるか」という質問に対しては、76.9%が「頼りになる」と回答しており(表20・21)、不満のある

表20 家族は困ったときに頼りになるか

	回答者数(人)	構成比(%)
とても頼りになる	36	34.6
頼りになる	44	42.3
あまり頼りにならない	12	11.5
頼りにならない	12	11.5
合計	104	100.0

表21 家族の中で頼れる人(複数回答)

N=80人

	回答数(人)	構成比(%)
実のお父さん	42	52.5
義理のお父さん	5	6.3
実のお母さん	57	71.3
義理のお母さん	1	1.3
おじいさん	5	6.3
おばあさん	8	10.0
きょうだい	35	43.8
親戚の人	16	20.0
その他	2	2.5

◎表21の「その他」の内容

- ・男の人
- ・妻、子供

複雑な家族関係にあっても、頼れるのは家族という結果となっている。

2. 学校生活における先生

学校における先生との関係では、7割以上の少年が「好きな先生」がおり(表22)、それは「中学校」のときの先生(表23)で、「担任」の先生(表

表22 好きな先生

	回答者数(人)	構成比(%)
いない	29	27.9
いる	75	72.1
合計	104	100.0

表23 好きな先生はいつの先生か(複数回答)

N=75人

	回答数(人)	構成比(%)
小学校	30	40.0
中学校	53	70.7
高校	14	18.7
その他	1	1.3

表 24 好きな先生は誰か (複数回答)

N = 75 人

	回答者数 (人)	構成比 (%)
担任の先生	64	85.3
保健室の先生	22	29.3
その他	20	26.7

◎表 24 の「その他」の内容

- ・部活の先生 (同回答 2 名)
- ・教頭先生
- ・社会、国語、体育の先生
- ・用務員さん
- ・元ヤンの副担任
- ・音楽の先生
- ・教育指導生活指導の先生
- ・校長
- ・他のクラスの先生 (同回答 2 名)
- ・生徒指導校長
- ・生活指導
- ・美術の先生、校長先生

24) が高くなっている。

家族のときと同様に、先生にも「もっと話を聞いてもらいたい」と思っているが(表 25)、全体的な評価としては、約 7 割が先生との関係に「満足」しており(表 26)、先生は困ったときに頼りになるとしている(表 27)。

3. 友人関係

(1) 学校内外における友人

少年たちの友人関係について、学校と学校以外とに分けて見てみると、親しい友人の数は、学校では 1～5 名程度が多いが、学校以外では 10～20 名といった多くの友達と付き合っている(表 28)。それぞれの親しくなった経緯は、学校が「近所」「同じクラス」「クラブ活動」であるのに対して、

表 25 好きな先生に、もっと話を聞いてもらいたいか

	回答者数 (人)	構成比 (%)
思う	57	54.8
あまり思わない	39	37.5
N. A	8	7.7
合計	104	100.0

表 26 学校の先生の満足度

	回答者数 (人)	構成比 (%)
満足	71	68.3
不満	30	28.8
N. A	3	2.9
合計	104	100.0

表 27 好きな先生は困ったときに頼りになるか

	回答者数(人)	構成比(%)
とても頼りになる	29	27.9
頼りになる	43	41.3
あまり頼りにならない	5	4.8
頼りにならない	19	18.3
N. A	8	7.7
合計	104	100.0

学校以外では学校内・外を問わず、「友人を通して」が多く(表 29)、他には「街で知り合った」あるいは「メールを介して」知り合っている(表 30)。

付き合いの内容は、「悲しい事があったら話を聞いてもらう」という項目では学校内外を通して共通しているが、学校での友人が「お互いの悪いところは言い合える」「何も言わなくても分かり合えている」「お互いの性格は裏の裏まで知っている」というように深い付き合いであるのに対して、学

表 28 親しい友達の数

	学校での友達		学校以外での友達	
	回答者数 (人)	構成比 (%)	回答者数 (人)	構成比 (%)
いない	9	8.7	2	1.9
1～2 人	28	26.9	5	4.8
3～5 人	30	28.8	10	9.6
6～9 人	10	9.6	7	6.7
10～14 人	10	9.6	17	16.3
15～19 人	3	2.9	5	4.8
20 人～	12	11.5	56	53.8
N. A	2	1.9	2	1.9
合計	104	100.0	104	100.0

表 29 学校の友達と仲良くなった理由 (複数回答)

N=93 人

	回答数(人)	構成比(%)
近所に住んでいるから	53	57.0
同じクラスだから	56	60.2
塾や習い事が一緒だった	5	5.4
クラブ活動が一緒だから	31	33.3
親同士の仲がよいから	10	10.8
その他	27	29.0

◎表 29 の「その他」の回答

- ・不良仲間
- ・幼なじみといつも一緒に居る人
- ・一人はいいとこ、一人は彼女
- ・雰囲気合い、話すとき気が合った (同回答 3 名)
- ・クラスメイトのほかのクラスの友達
- ・高校時代一緒に委員長をしていたから
- ・幼なじみ
- ・気が合い、話なども良く聞いてくれて理解してくれる
- ・夜遊びを通して和解していった
- ・友達の友達だったから
- ・同じ学校だから (同回答 2 名)
- ・自然と
- ・中学の時の遊び仲間
- ・学校が小・中学校ずっと同じクラスだったから
- ・おきななじみ、非行を通して
- ・友人のつながりで知り合ったから
- ・同じような感じがするから
- ・全部一緒
- ・メール
- ・幼い頃からの仲だから

校以外の友人とは「自分のすべてをさらけ出すわけではない」「相手にけっこう気を使っている」「あまり深刻な話はしない」というように一定の距離を置いて付き合っている (表 31)。

その結果、友人に対する評価も、「困ったときに頼りになる」のも (表 32)、「満足度」においても (表 33)、学校での友人が勝っており、反対に「困っていること」は、学校以外の友人において高くなっている (表 34)。その内容も、「グループのまとまりが悪い」「好きでもないのに付き合いなければならない」と、無理をして友人関係を継続している様子が見られる (表 35)。

(2) 異性の友人

大多数の少年が異性の友人をもっており、「異性の友人がいない」は 1.9% にすぎない。また、その人数も多く「10 人以上」が 75% を超えている (表 36)。その友人は、学校での友人と同様に、「頼りになる」と回答している (表 37)。

表 30 学校以外の友達とどこで知り合ったか

(複数回答)

N=100 人

	回答数(人)	構成比(%)
幼なじみ	38	38.0
学校の友達	72	72.0
職場・アルバイト先で知り合った友達	34	34.0
街で知り合った友達	63	63.0
塾や予備校の友達	2	2.0
メールや電話を通して知り合った友達	40	40.0
学校以外での友達の紹介	80	80.0
ゲームセンター	35	35
その他	20	20.0

◎表 30 の「その他」の回答

- ・ヘルス、ピンサロ、飲み屋
- ・不良交友、暴力団を通して
- ・暴走族や旧車のイベント
- ・不良交友
- ・先輩
- ・ケンカ、夜中の公園、バイクの窃盗
- ・友達のしょうかい
- ・ナンパ
- ・色々
- ・なんとなく声かけて仲良くなった
- ・暴走族の友達
- ・もめたり、けんか等で知り合った (同回答 3 名)
- ・僕の物を盗んでいた人
- ・転校していった人の知り合い
- ・クルマのイベントなど (同回答 2 名)

4. 親戚や住んでいた地域との関係

(1) 親戚

親戚については、7 割程度の少年が何らかの接触を持っているが (表 38)、その半数は年に数回会う程度で、日常的な交流をもっているものは多くはない (表 39)。なお、この間には 3 割近くの者が無回答であった。その結果、親戚を頼りにする者も 4 割程度であり (表 40)、学校の先生や友人よりも低い。しかし、相対的な満足度は 7 割程度が満足しており (表 41)、そもそも少年たちにとっての親戚との関わりというものが、年に数回会う程度の存在という認識なのかもしれない。

(2) 地域社会の大人

少年院に入る前に住んでいた地域の大人については、「声をかけてくれる人」は 6 割程度はいる (表 42) もの、少年たちは地域の大人を頼りにはしていない (表 43) し、4 人にひとり少年院を出

表 31 付き合いの内容（複数回答）

	学校の友達 N=104人		学校以外の友達 N=104人	
	回答数(人)	構成比(%)	回答数(人)	構成比(%)
悲しいことがあったら話を聞いてもらう	58	55.8	52	50.0
相手にけっこう気をつかっている	31	29.8	39	37.5
あまり深刻な相談はしない	28	26.9	38	36.5
つきあっているのは何か得るものがあるからだ	21	20.2	30	28.8
お互いに張り合う気持ちがある	33	31.7	31	29.8
何も言わなくてもわかりあえている	47	45.2	24	23.1
お互いの性格は裏の裏まで知っている	45	43.3	31	29.8
自分のすべてをさらけだすわけではない	29	27.9	42	40.4
お互いに悪いところは悪いといいあえる	52	50.0	36	34.6
一緒にいるときでも別々のことをしている	24	23.1	27	26.0

表 32 友達は困ったときに頼りになるか

	学校での友達		学校以外での友達	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
とても頼りになる	33	31.7	11	10.6
頼りになる	41	39.4	32	30.8
あまり頼りにならない	16	15.4	24	23.1
頼りにならない	13	12.5	35	33.7
N. A	1	1.0	2	2.0
合計	104	100.0	104	100.0

表 33 友達の満足度

	学校の友達		学校以外の友達	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
満足	85	81.7	80	76.9
不満	18	17.3	20	19.2
N. A	1	1.0	4	3.8
合計	104	100.0	104	100.0

表 34 友達との関係で困っていること

	学校の友達		学校以外の友達	
	回答者数(人)	構成比(%)	回答者数(人)	構成比(%)
ない	84	80.8	72	69.2
ある	20	19.2	29	27.9
N. A	0	0.0	3	2.9
合計	104	100.0	104	100.0

表 35 困っている内容（複数回答）

	学校の友達 N=20人		学校以外の友達 N=29人	
	回答数(人)	構成比(%)	回答数(人)	構成比(%)
気の合う友達がいらない	5	25.0	6	20.7
お互いに心を打ち明けあうことができない	7	35.0	9	31.0
自分よりも他の人と仲良くする	3	15.0	3	10.3
仲間はずれにされる	5	25.0	2	6.9
自分のすることに口出ししている	2	10.0	7	24.1
グループのなかのまとまりが悪い	5	25.0	13	44.8
自分のことをわかってくれない	3	15.0	3	10.3
自分のいうことがとおらない	1	5.0	3	10.3
自分に冷たい	4	20.0	2	6.9
好きでもないのにつき合わなければならない	8	40.0	13	44.8
つきあっていても張り合がなく、自分が向上しない	5	25.0	5	17.2
その他	6	30.0	8	27.6

◎表 35 の「学校の友達」の「その他」の回答

- ・話が合わない
- ・口だけだから
- ・最近あんまり連絡がない
- ・友達同士が仲が悪かった
- ・つまらない
- ・いじめられるから

◎表 35 の「学校以外の友達」の「その他」の回答

- ・先輩との付き合いが大変
- ・不良交友、暴力団だから
- ・すぐ暴力をしてくる
- ・自分勝手
- ・いじめられるから
- ・じゃまくさい、めざわりだ
- ・うざい
- ・反社会的な集団へのつながりがある

表 36 異性の友達の人数

	回答者数(人)	構成比(%)
1	4	3.8
2～3	2	1.9
4～5	6	5.8
6～9	5	4.8
10人以上	78	75.1
いない	7	1.9
N. A	2	6.7
合計	104	100.0

表 37 異性の友達は困ったときに頼りになるか

	回答者数(人)	構成比(%)
とても頼りになる	19	18.3
頼りになる	49	47.1
あまり頼りにならない	19	18.3
頼りにならない	12	11.5
N. A	5	4.8
合計	104	100.0

注) 異性の友達がいなかった者も回答者数に含む。

表 38 親戚と会うか

	回答者数(人)	構成比(%)
まったく会わない	28	26.9
会う	74	71.2
N. A	2	1.9
合計	104	100.0

表 39 年に親戚と会う回数

	回答者数(人)	構成比(%)
1～5回	48	46.1
6～10回	4	3.8
11～20回	2	2.0
21～30回	4	3.9
31～60回	5	4.8
61回～	11	10.8
N. A	30	28.8
合計	104	100.0

表40 親戚は困ったときに頼りになるか

	回答者数(人)	構成比(%)
とても頼りになる	11	10.6
頼りになる	32	30.8
あまり頼りにならない	24	23.1
頼りにならない	35	33.7
N. A	2	2.0
合計	104	100.0

表41 親戚の人への満足度

	回答者数(人)	構成比(%)
満足	70	67.3
不満	32	30.8
N. A	2	1.9
合計	104	100.0

表42 地域で声をかけてくれる大人がいるか

	回答者数(人)	構成比(%)
はい	61	58.7
いいえ	43	41.3
合計	104	100.0

表43 地域の人には困ったときに頼りになるか

	回答者数(人)	構成比(%)
とても頼りになる	2	1.9
頼りになる	10	9.6
あまり頼りにならない	32	30.8
頼りにならない	55	52.9
N. A	5	4.8
合計	104	100.0

表44 少年院を出た後、前の地域に戻りたいか

	回答者数(人)	構成比(%)
戻りたい	78	75.0
戻りたくない	26	25.0
合計	104	100.0

た後も元の地域に戻りたくないという回答している(表44)。その理由としては、「その他」の内容に表れているように、地域社会への不満というよりも、

表45 地域に戻りたくない理由(複数回答)

N=26人		
	回答数(人)	構成比(%)
生活が不便である	8	30.8
人の気持ちが冷たい	3	11.5
まわりの人々が口うるさい	2	7.7
さわがしくて、落ち着かない	3	11.5
活気がない	4	15.4
よい学校や就職口がない	5	19.2
空気が汚れているなど、生活環境が悪い	3	11.5
親しい人がいない	4	15.4
その他	17	65.4

◎表45の「その他」の内容

- ・不良交友、不良集団、反社会組織が多い(同回答2名)
- ・不良交友関係(同回答5名)
- ・気持ちを新たにしたいから
- ・少年院にいるのとはかわらず、自分にとっては監獄だから
- ・たくさんの物を失い、自分に自身がなくなったため
- ・嫌だから
- ・一人暮らしをするから
- ・友達から離れたたい
- ・どっちでも良い
- ・あきたし、せまい
- ・非行をくりかえす確立が高い
- ・気まずい

自らの交友関係を断ち切りたいという想いが強い(表45)。

5. 将来について

少年たちが少年院を出た後に、どの学校まで進学したいのかについては、「中学校卒業」+「高校まで」が半数を占め、「大学まで」は5.8%にすぎない(表46)。一方、仕事については、9割近くが就きたい仕事を抱いており(表47)、その内容は夢を抱いている者も含めて、かなり具体的である(表

表46 将来、どの学校まで進学したいか

	少年院群	
	回答者数(人)	構成比(%)
中学校卒業まで	19	18.3
高校まで	36	34.6
専門学校、短大まで	20	19.2
大学まで	6	5.8
わからない	20	19.2
N. A	3	2.9
合計	104	100.0

表 47 将来つきたい仕事はあるか

	回答者数(人)	構成比(%)
あ る	90	86.5
な い	14	13.5
合 計	104	100.0

表 48 どのような仕事につきたいか

	回答者数(人)	構成比(%)
建設関係	32	35.6
自動車関係	17	18.9
調理関係	6	6.7
福祉関係	4	4.4
理容関係	3	3.3
その他	29	32.2
合 計	90	100.0

注1) 建設関係とは、大工、型枠大工、鉄筋工、土木、土方、塗装業、溶接業、内装、髙職、等を指す。

注2) 自動車関係とは、トラック運転手、自動車整備士、等を指す。

◎表48の「その他」の回答

- ・収入の良い仕事(同回答2名)
- ・服飾の仕事、写真家
- ・会社を経営
- ・歌手もしくは構成作家
- ・僕が製作、提供、紹介する物で人に喜んでもらえる仕事
- ・ここに来る前までやってた派遣社員の仕事
- ・医師
- ・音楽関係
- ・肉体労働
- ・営業関係
- ・俳優、介護職、自衛隊
- ・夜の仕事、力仕事
- ・歌手かバーテンダー
- ・飲食店経営
- ・司法書士
- ・旅行会社
- ・カイロプラクティックドクター
- ・歌手
- ・プロ野球選手
- ・事務系の仕事
- ・コンピューター関係
- ・ホスト
- ・もうむり
- ・母校の先生
- ・体を使う仕事

48)。

また、こうした将来のことについて最も相談に乗ってくれるのは、実母が高く、次いで実父となっている(表49)。さらに9割近くの者が、相談に乗ってもらうことに満足していた(表50)。

表 49 一番相談にのってくれるのはだれか

	回答者数(人)	構成比(%)
実のおとうさん	12	11.5
義理のおとうさん	1	1.0
実のおかあさん	37	35.6
義理のおかあさん	0	0.0
おじいさん	0	0.0
おばあさん	0	0.0
きょうだい	9	8.7
親戚の人	1	1.0
学校の先生	1	1.0
少年院の先生	7	6.7
学校の友達	2	1.9
異性の友達	7	6.7
学校以外の場でつきあう友達	6	5.8
近所に住む大人	0	0.0
そのような人はいない	5	4.8
その他	7	6.7
N. A	9	8.7
合 計	104	100.0

◎表49の「その他」の内容

- ・先輩であり、良き上司でもある人
- ・彼女の兄ちゃん
- ・親友
- ・複数いる(同回答7名)
- ・会社の社長
- ・友達、彼女
- ・自分
- ・わかりません

表 50 その人に相談にのってもらうことへの満足度

	回答者数(人)	構成比(%)
満足している	92	88.5
不満である	6	5.8
N. A	6	5.8
合 計	104	100.0

最後に、自分の人生の中で一番に心に残る人をあげてもらおうと、やはり実母が一番で、次いで実父であるが、「その他」の内容にあるように「一人には決められない」という回答がある一方で、「そのような人はいない」も6.7%いた(表51)。

6. 大人への要望

「これから社会で生活していくことを考えた時、現在の大人に一番に望むことは何ですか」に対す

表 51 一番心に残る人は誰か

	回答者数(人)	構成比(%)
実のおとうさん	12	11.5
義理のおとうさん	0	0.0
実のおかあさん	31	29.8
義理のおかあさん	0	0.0
おじいさん	4	3.8
おばあさん	1	1.0
きょうだい	4	3.8
親戚の人	0	0.0
学校の先生	0	0.0
少年院の先生	8	7.7
学校の友達	4	3.8
異性の友達	9	8.7
学校以外の場でつきあう友達	8	7.7
近所に住む大人	0	0.0
そのような人はいない	7	6.7
その他	11	10.6
N. A	5	4.8
合計	104	100.0

◎表 51 の「その他」の内容

- ・一番を決める事は出来ない (同回答 5 名)
- ・死んだじいちゃん
- ・元彼女
- ・殺してしまった友達
- ・僕に優しくしてくれた全ての人
- ・彼女 (同回答 2 名)
- ・家族みんなと彼女

る自由回答では、下記に示したように、具体的な要望と同時に自らを制している回答が見られた。

- ・景気回復
- ・特にない (見守っていて欲しい)。
- ・わからないこともたくさんあり、できないこともたくさんあるけど、見捨てないでほしい。
- ・もっと少年達の話に耳をかたむけて欲しいです。
- ・せんにゆうかんやかたよった考え方はやめてほしい。
- ・見守り厳しく支えてほしい。また、無関心じゃなくてもっと積極的に関わりを求めてほしいと思います。離れて見られているから、投げやりになってしまうから、知ってほしいです。もっと僕達の事を。
- ・決めつけたりするのは止めて欲しい。もっと子

供とちゃんと話すべきだ。子供にいっぱい本を読ませましょう。

- ・子供をたくさん産んで下さい (少子化を防ぐため)。一人一人思いやりを持って下さい(自分のことしか考えていない大人が多いので)。
- ・少年院や刑務所あがりの人々に厳しくして欲しい。
- ・大人も人の子なんだからミスはぜったいあります。同僚のミスを面子とかでかくしたい気持ちはわかりますが、「かくす」より「正す」方がその人のためにもなりますよ。自分も思いますし、よく歌詞の中でもあります「大人になっていくことは汚れていくこと」なんて、言われたり思われたりしないような大人になって下さい。
- ・大人の人達にのぞむことはとくにありませんが、今までと同じように普通に接してくれたらすごくうれしいです。
- ・税金を扱う人達は、国の代表としての責任を持ち、自分の為では無くちゃんと国の為に使って欲しい。そして、色々な社会保障を整備して金銭的に豊かな人も貧しい人もある程度平等にして、税金制度を考え直して欲しい。
- ・生きるために仕方がなく働くのではなく、仕事を生きがいとして夢をもって楽しそうに生きる姿を見せて欲しい。お金をもらっているのなら、手を抜かずに仕事をして、大人なんだから善悪の判断を付けて生きて欲しい。
- ・色々な物事や人に対して偏見を持たずに生きて、今ある物の過程を見たり、考えたりする努力をして、ありのままを受け入れて欲しい。
- ・僕は 20 歳になったので、嫌だと思う大人にならない生き方を選ぶので、大人は子供に夢を与えなければいけないと思う。アンケートを無駄にせず社会に役立てて欲しい。今までは不良をやって来たけど「もう変わったんだ」という気持ちをもちながらこれから生活して行くつもりだけど、「あいつ悪いやつだ」とか、特別扱いしないで普通の社会人として接してほしいです。
- ・今のままで良い。
- ・望むほど疲れるものはないので望むことも無く

- なりました。一つあげると、謙虚を美德と捉えて影でさわぎたてるのは、見ていて情けないのと同時にもどかしい。その場でハッキリと自分の意志を伝えてもらいたい。
- ・少子化問題について考えて、将来自分たちも年金がもらえるようにしてほしい。
 - ・何か問題を起こしても、その事だけで文句を言わず、問題を起した理由や原因を知り、そこで始めて何が悪いのか良いのか言って、もっと相談に乗ってもらいたい。いつまでも子供だと思わないでほしい、いずれ中身も大人に変わるのだから。
 - ・大人は本当にきたないです。警察や国の偉い人が犯罪をしているのに、人が悪い事をして、でかく人に言うのはおかしい。それも有名な人や偉い人はお金などが動き、何でも罪が軽くなっている。それが日本のおかしいところで大人がダメだから、社会もダメになっているから、大人にはしっかりしてほしいです。
 - ・もっと僕たちの気持ちをわかってほしいです。
 - ・少年院から出ても差別されることもなく、一般人として見てほしい。こんな僕をサポートしてほしい。
 - ・人に対する思いやりや優しさを大切にしてください。
 - ・もっと子供の事を考えてほしいです。
 - ・色々な事件が多く、女・金にくるう大人が増えています。自分は子供の見本になれるような大人になりたいです。
 - ・自分のことばかり考えていないで周りのことをもっと考えて欲しいし、平和を第一に考えて行動して欲しい。
 - ・望みません。
 - ・もっと、子供の気持ちを考えろ。
 - ・大人は子どもに正しい考えを押しつけようとしてくることが多くて、嫌になります。自分が正しいと思ったことに自信を持たせてほしいから、うるさくしないでほしいです。
 - ・もっと見てほしい。
 - ・中卒でも高収入の会社を出してほしい。人は簡単にどなったり、なぐったりするものではない。中身を知るべきです。
 - ・人の目を見て話してほしいこと。したっばの人間にもっと仕事を出してほしい。きちんと人の話を聞いてほしいこと。
 - ・僕のする事にいちいち口を出さないでほしい。大人はいつも自分の都合ばかりでガキの気持ちなんざ、これっぽちもわかっていない。子供は大人のマリオネットではないから、自分中心に世界を考えて、子供をふりまわさないでほしい。
 - ・見下さないでいただきたいです。
 - ・子供の気持ちを理解してほしいし、理解しようとどりよくしてほしい。僕達だけが変わるのではなく、大人たちもその場と時代にあった変わり方をしてほしい。
 - ・一緒になって考えてくれる気持ち。厳しく悪い事をした時は怒って欲しい。
 - ・大人だからとかそういった区別や考えはないのですが、人間として人の意見や考えをちゃんと聞き、受け入れていく柔軟さというのは社会生活の中で子供でも大人でも関係なく大切な事だと思うので、もちろん私自身も気を付けていきたいと思っていますし、周りや周囲の人全般に対してもこれは望みます。
 - ・特にありませんが、自分から社会に適用する人間になりたいです。
 - ・何も無い。人は人だから。
 - ・もっと優しく!!
 - ・非行少年と言われていた人でも、更生したときは、一人の社会人として受けとめてほしい。
 - ・りっぱな人になってください。
 - ・何もいわなくていいから、自分の生活を見てほしい。
 - ・望んでも変わらないと思うからありません。
 - ・まだやってみてもいいことをやる前から「無理だ」と言わないでほしい。
 - ・「お前はダメだ」と決め付けるのではなく、一度、じっくりと話を聞いてあげて欲しいです。
 - ・自分に気を使わないで接してほしい。
 - ・厳しくしてもらいたいと思うことしかありません

- ん。
- 子どもの気持ちをわかってほしい。自由をあたえてほしい。子供と居る時間を長く作ってほしい。
 - 一人一人やりたいようにやってくれればいい、今まで通り。がまんしたいならがまんして、がまんできかないならがまんしないで、色々な人がいるから色々な人間関係ができておもしろくなるからそれでいいと思う。そうしないと社会が進歩しないから。
 - 話を最後まで聞いてほしい。
 - 裏切ることや、できない者を切り捨てていき、見た目で判断したりすることや、うそをつき少年達をだまして生活している人が居なくなってほしい。そして、悪いことをする僕達も、本当は真剣に社会で生活していき、普通の道を進みたいし、根からの悪人じゃないことをわかってもらいたいと思います。現在の社会のちあんはとても悪く、競争社会となり勝ちのこる者と負けて落ちる者とがはげしいさが出てきています。僕はその中で、負けかけている人です。大人じゃなく、もうすこし、ゆとりのある社会になると、勝ち負け関係ない社会になると、犯罪などが減るんじゃないかと思います。
 - 子供達のことをもっともっと分かってもらいたい。
 - 一生懸命に仕事をして、家族を少しでも良いから、楽な生活をつくってあげたい。
 - 協力、どりょくです。
 - もっと子供の立場に立って物事を考えてほしい。自分の意見、思いを言うことだけが教育ではない。

- 上から見るのではなく、真正面で見たい。
- 大人には社会で生活していく上での手本になって欲しい。
- 主観的な考えにとらわれず、もう少し家族や周りのことも考えられる客観的な部分というのを持ってほしいということと、自分の価値観等に、固執しないでほしいです。
- 大人の都合ばかりで今の世の中は成り立っていると思うので、もっと10代の過ごしやすい環境や大人がもっと子供や、自分の息子だけに限らず他の子供達と接して、外見だけで判断しないで欲しいです。外見悪くても中身のいい人もたくさんいるので外見だけで決めつけないで、もっと10代の人達と接して欲しいです。怒る時は怒る、ほめる時はほめる。
- もっと自分のことを見てほしいと思います。それと、上下関係にこだわらず、なんでも話しあえるようなかんけいになりたいです。
- はっきりとした態度
- 特に思う事はたかが何年、何十年先に生まれているからと言っていばらないでほしい。そんなにお前はえらいのか!?! 人生けいけんがたくさんあるのかもしれないけど、上から目線で見ると自分も嫌なら特にいばるな。いかにも自分はパーフェクト人間といわんばかりの態度がムカつく。見ていて腹が立ちます。
- 自分自身が勝手な行動をしていたので特にありません。

(北海道大学大学院教育学研究院・准教授)
 (元北海道大学大学院教育学研究科修士課程)